

別紙様式

平成27年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	<p>「附属ブランドの確立～発展的な学習等によるスーパー中学生の育成～」</p> <p>－『学び伸ばし・学び直しセミナー』事業の継続と一層の充実－</p> <p>～附属生一人一人の「底力」をはぐくむ附属ならではのプロジェクト～</p>
事業実施代表者名	附属旭川中学校長 安藤秀俊
実施附属学校名	附属旭川中学校
<p>事業内容</p> <p>(実施内容について、1,000字程度で記述)</p>	<p>学長発アクションプランにおいては、附属学校園の取組として、附属学校ならではの特色ある教育の創造が求められている。</p> <p>また、文部科学省は、これからの学校教育において、自ら課題を見付け追究し解決を図るため、一人一人の資質能力を高める「アクティブ・ラーニング」の実践を強く求めている。</p> <p>本校では、生徒が柔軟に時間を使える放課後を活用し、自らの課題克服のため自学する力を高める「セミナー」を本プロジェクトにて経年実践してきており、本実践は、学長や文部科学省が、今、求めていることとまさに軌を一にした取組みであると自負している。</p> <p>今年度は、本校生徒の全国学力学習状況調査や全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実態及び一人一人の可能性を踏まえ、各種検定の受験を積極的に推奨し高次の資格を取得させる取組を始め、学びの定着を確実に図る取組にも重点を置く等、従前より予算化されている本事業を継続・強化することで一層の成果を上げ、本校の特色の形成を継続している。</p> <p>以下、経年、実施している次の4点について、今年度も主たる取組として実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発展的な学びにより学力の向上を目指すとともに、高次の資格取得についても積極的に取り組んでいる。 ○補充的な学習の実施により、全校生徒の学力底上げを着実に図っている。 ○体育の学習において取り扱う資質能力も当然「学力」の一要件との認識から、体力課題に対する発展的な学習や補充学習についても取り組んでいる。 ○将来の本校の生徒となる附属小学校の高学年児童に対し、本セミナー参加の門戸を積極的に開いている。

	<p>いずれも、生徒に大変好評であり、今年度、回数、参加人数とも例年並みである。加えて、教科と連携を図った「学び直し」（補充学習）やより高次な内容を主体的に学ぶ「学び伸ばし」（発展学習）は、それぞれのニーズに十分応える充実ぶりであった。こうした取組は、本校評議員からも高い評価を受けている。</p>																		
<p>成果と課題 （活動の成果と課題について、500字程度で記述）</p>	<p>従前から実施している附属旭川小学校の高学年児童への呼びかけも継続して実施しており、一つの教室で将来の先輩・後輩が教えたり学び取ったりと、微笑ましい光景が見受けられた。</p> <p>また、別表のとおり、単に受験するだけでなく、確かな結果を残す生徒が増えてきている。課題としては、現在、時間講師をやりくりしながら体制を組んでいるが、予算面はもとより、人的・物的な体制の維持が継続して挙げられる。下記に、計画書の中で目標とした事項について、その達成状況を記載する。</p> <p>○各種検定応募者及び受験者の拡充を図り、受験者には対象学年以上のレベルの資格を取得させること</p> <p>結果：昨年度末の行った実態調査から、応募者・受験者・取得者が格段に増加しており、また、前年度に比べ、より高次の資格等を取得する生徒も増加している。</p> <p>考察：生徒の学習活動に対する意欲と教師の諸々の働きかけの成果により、こうした傾向が維持されていると考える。</p> <p>○全国学力・学習状況調査において、全教科のA問題の平均を85ポイント以上、B問題の平均を75ポイント以上とすること。</p> <p>結果</p> <table border="1" data-bbox="571 1335 1248 1482"> <thead> <tr> <th></th> <th>国語A</th> <th>国語B</th> <th>数学A</th> <th>数学B</th> <th>理 科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本校</td> <td>89.5</td> <td>76.8</td> <td>83.8</td> <td>67.4</td> <td>75.8</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>76.2</td> <td>66.2</td> <td>65.0</td> <td>42.4</td> <td>53.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>考察：いずれの調査においても全国平均を15～20ポイント上まっているが、目標の数値に届いていない教科もある。今後は、いかなる出題・調査にも対応できる能力を確実に育む必要がある。</p> <p>○各種コンクール等への積極的な参加を促し、応募率・受験率を高めるとともに、表彰対象となる生徒を増やすこと。</p> <p>結果：年度末の実態調査や全校集会における各月の表彰実態から、確実に増加していることが確認できた。</p> <p>考察：各種検定と同様、生徒の学習活動に対する意欲と教員の諸々の働きかけの成果により、こうした傾向が維持されており、結果、校内の活性化の一助ともなっている。</p>		国語A	国語B	数学A	数学B	理 科	本校	89.5	76.8	83.8	67.4	75.8	全国	76.2	66.2	65.0	42.4	53.5
	国語A	国語B	数学A	数学B	理 科														
本校	89.5	76.8	83.8	67.4	75.8														
全国	76.2	66.2	65.0	42.4	53.5														

	<p>○本事業実施後、受講した児童及び全校生徒、全保護者、附属小学校の教員を対象に満足度調査を実施し、「大変満足である」「満足である」の数値を合わせて80%以上獲得すること。</p> <p>結果：児童・生徒 81.2% 保護者 93.3% 教職員 100.0%</p> <p>考察：満足度合いの他、「セミナーの有用性」について調査したところ、三者ともに「必要」と回答した割合が90%を超えており、高いニーズが伺えた。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>今年度も主に次の4点により、内容的な充実が維持されており、生徒や保護者から高い評価を受けている。</p> <p>○年齢的にも相談しやすい時間講師の存在が学習支援の効果、学習意欲の喚起に繋がっているようである。</p> <p>○発展的・補充的学習の推進により、自分の課題に応じた学習を展開できることにメリットを感じているようである。</p> <p>○体育学習の推進により、実技面の強化を図りたいとのニーズにも応えることができるようになっている。</p> <p>○小学校との連携により、学び合い、扶助し合いながら新たな関係性を構築できているようである。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>なし</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。